

参考手本

※これは規定課題ではありません。

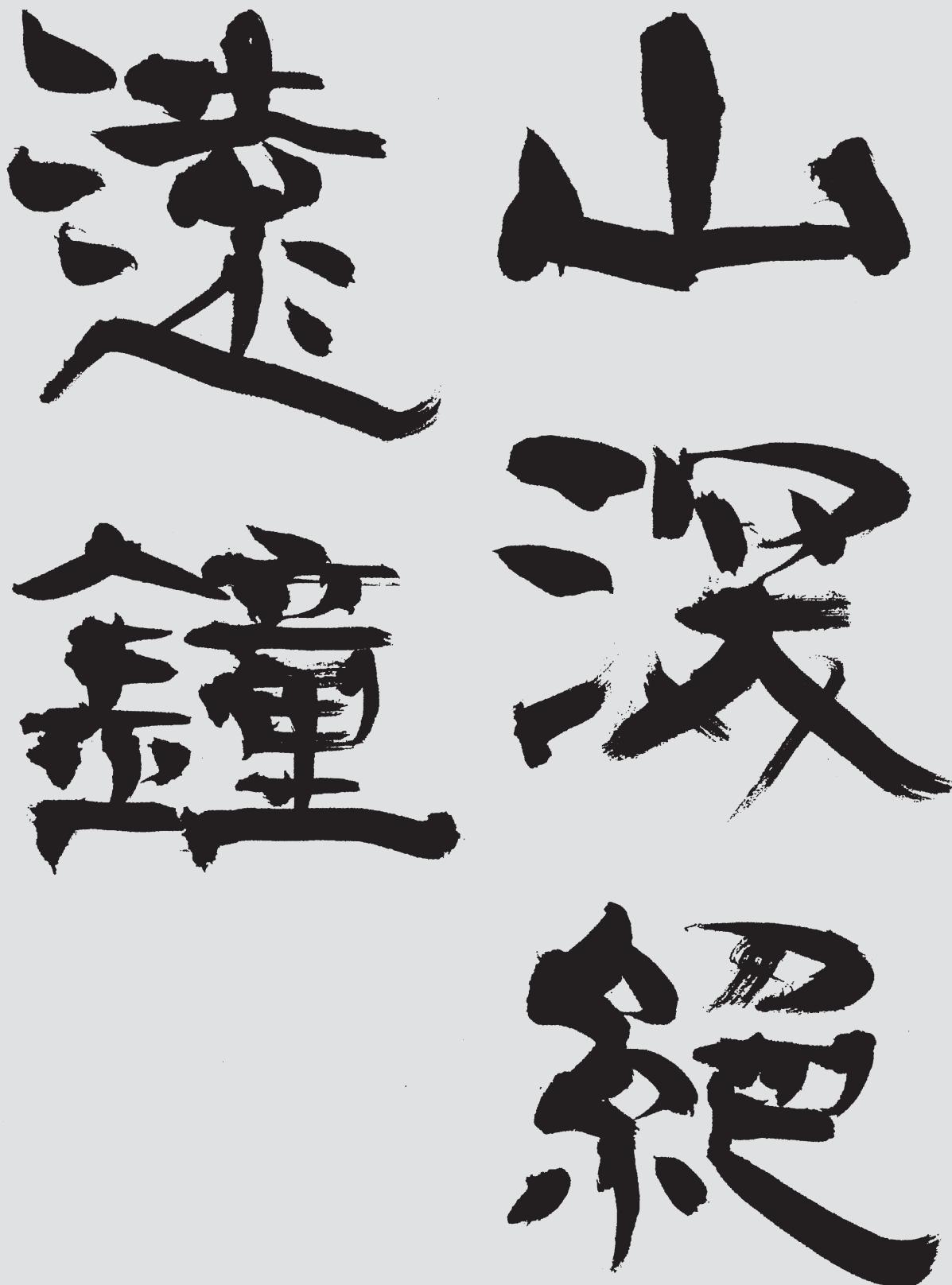


山深くして遠鐘に絶ゆ
やまふかしてえんしょうに絶ゆ

高木聖雨先生

参 考 手 本

※これは規定課題ではありません。



やまふか
深くして
えんしょう
遠鐘に
あた
絶ゆ

条幅かな

条幅規定

C部（二段以下）

A部（準五段以上）
B部（四段～準三段）

忍ぶれば涙ぞしるき紅にもの於思ふ袖に染むべかりける（白河女御越後）

※かな部は支部名・段級・姓号を鉛筆で左側下部に添え書きして下さい。



集字聖教序（東晋・王羲之）

出隻千古而無對凝心內境悲正法之陵遲

浮乘清鄉先生

出隻千古而無對凝心內
境悲正法之陵遲

道因法師碑（唐・歐陽通）

聞諸寺英翹灑然祗服咸敷師子之坐用佇頻

聞諸寺英翹灑然祗服咸
敷師子之坐用佇頻

条幅のバーコード出品券にはA・B・Cでは無く段・級を記入して下さい

（1月10日締切）

半紙規定(一)

※清書作品には支部名・段級・雅号を必ず筆で記入して下さい。

曹全碑（漢・作者不詳）



謬らす、
出でて諸郡を
典り、

謬出典諸郡

[この課題を同月の半紙随意には出品出来ません]

(1月10日締切)

半紙規定(二)

清書の提出は〔初段以上〕楷書か隸書

〔二級以下〕楷書

巖を分かちて闕を竦やかす高閣

九成宮醴泉銘（唐・歐陽詢）

巖竦闕高閣



〔この課題を同月の半紙随意には出品出来ません〕

(1月10日締切)

条幅参考

涼月漾中流金山隱浮尚餘

殘醉在和夢到揚州

終形詩屬物

板垣厲跳先生

涼月漾中流 金山隱隱浮 尚餘殘醉在 和夢到揚州

涼しき月影が大江の中流にただよひて動き、金山が水を隔てて隱隱として見ゆ。我は尚ほ殘醉が未だ醒めず、夢を見つつ揚州に到れり。

下出義山先生

千山鳥飛絶
萬徑人蹤滅
孤舟蓑笠翁
獨釣寒江雪

千山鳥飛絶 萬徑人蹤滅
孤舟蓑笠翁 獨釣寒江雪
千山 鳥の飛ぶこと絶え 萬徑 人の蹤滅ゆ 孤舟
蓑笠の翁 獨り釣る 寒江の雪

条幅参考本

塙田 悠 碩 先生

客起何太早 村荒絶雞鳴 況時江雨晦 不得見啓明
時江雨晦不得見啓明 雀獲口

客起何太早 村荒絶雞鳴 況時江雨晦 不得見啓明
客起 何ぞ太だ早き 村荒れて鷄鳴絶ゆ 況んや時に江雨晦く 啓明を見るを得ざるをや

鈴木翡翠先生

ひさかたの三日月の浦四ふゝ養られて
富士の遙處雲一づまれり ほ藤をやえの歌
鶴をかく

ひさかたの三日月の湖ゆふ暮れて富士の裾原雲しづまれり 伊藤左千夫

半紙かな（初段以上）

久方の天の香山いづる日も我かたにこそ光さすらめ
（新院御製）

支部名 段 姓 号
(鉛筆可)

※支部名・段・姓号を鉛筆で左下に添え書きして下さい。
※ちらし文字変換は自由。

浮 乘 清 郷 先 生

(1月10日締切)

半紙かな（1級～8級）

若水に天地盤奈可利希里
わかみずにてんちばん奈可利希里
二
（星野麦人）

支部名 級 姓 号
(鉛筆可)

※支部名・級・姓号を鉛筆で左下に添え書きして下さい。
※ちらし文字変換は自由。

若水

若月久美子先生

(1月10日締切)

実用文（準三段以上）

〈書風任意〉

観覧者が読め：承知して…

支 部 あ 姓 う

今のま道の作品を大半の観覧
者が読めないという聲があつるのは
何ともしきります。しかし、私は詩
を讀ませ様とはしません。書と
いう表現をえてからううのです。

主幹菅野翠濤

成瀬映山「一本の線」より

(1月10日締切)

実用文（二段以下）

田 中 奎 堂 先 生

街では既にお正月の準備が
始つてゐる今年もまた年賀状
を筆文字で書き書の魅力を
より廣く傳へて行きたい。

支部名 段級 姓号

〈書風任意〉

（1月10日締切）

細字

支部

段級

姓

号

李 白 細 雨 招 暖 遠 霧
李 白 細 雨 招 暖 遠 霧
細 雨 招 暖 遠 霧
雨 招 暖 遠 霧
招 暖 遠 霧
暖 遠 霧
遠 霧
霧

※ 一級～八級は草書まで。 初段以上は隸書まで。

名前は必ず楷書

17 cm (よこ) × 24 cm (たて)

招 えん
暖 だん
遠 えん
霧 あい
暖かさを招く。
遠くにかかるもや。

硬筆（初段以上）

青 柳 江 雲 先 生

師走の候 お忙しい日々をお過るの
事と存ります。平素の古無沙汰のお詫
びに別便にてばかの品を送らせて
いたゞきました。 寒ざ嚴しき折
古自愛の上 良いお手をお迎え下さい。

支那名

萬

姓子

硬筆（4級以下）

支 部

級

姓
号

大晦日除夜の鐘を聞き、心身とともに
清めて新しい年を迎える。

本院定型用紙・たて半分に書く

田辺翠鶴先生

硬筆（1級～3級）

支 部 級 姓 号

大晦日除夜の鐘を聞き、心身ともに
清めて新しい年を迎える。

田辺翠鶴先生

（1月10日締切）

中2用



渡
邊
南
嶂
先
生

中3用



大
越
三
宗
先
生

平成27年書初めコンクール課題（1月13日締切）

小6用



渡
邊
南
嶂
先
生

中1用



渡
邊
南
嶂
先
生

平成27年書初めコンクール課題（1月13日締切）

小4用



大越三宗先生

小5用



大越三宗先生

平成27年書初めコンクール課題（1月13日締切）

小2用



鈴
木
翡翠
惠
先生

小3用



鈴
木
翡翠
惠
先生

平成27年書初めコンクール課題（1月13日締切）

小1・幼年用



中3用

年頭に当り、新春のお
喜びを申し上げます。

中1用

賀正 真美さんのご活
躍をお祈りします。

中2用

本年もよろしく、ご指
導をお願い申します。

中3～中1 青柳江雲先生

鈴木翡翠先生

平成27年書初めコンクール課題（1月13日締切）

小6用

新年にあたり今年は勉強もがんばります。

小5用

冬休み中のみんなで遊びに来てください。

小4用

家ぞくで書き初めをしました。母はうまかつた。

小6～小4 齊藤翡翠先生

小3用

冬休み中、かきぞめのれんしゅうをします。

小2用

先生に、年がじょうをかきました。

小1・幼年用

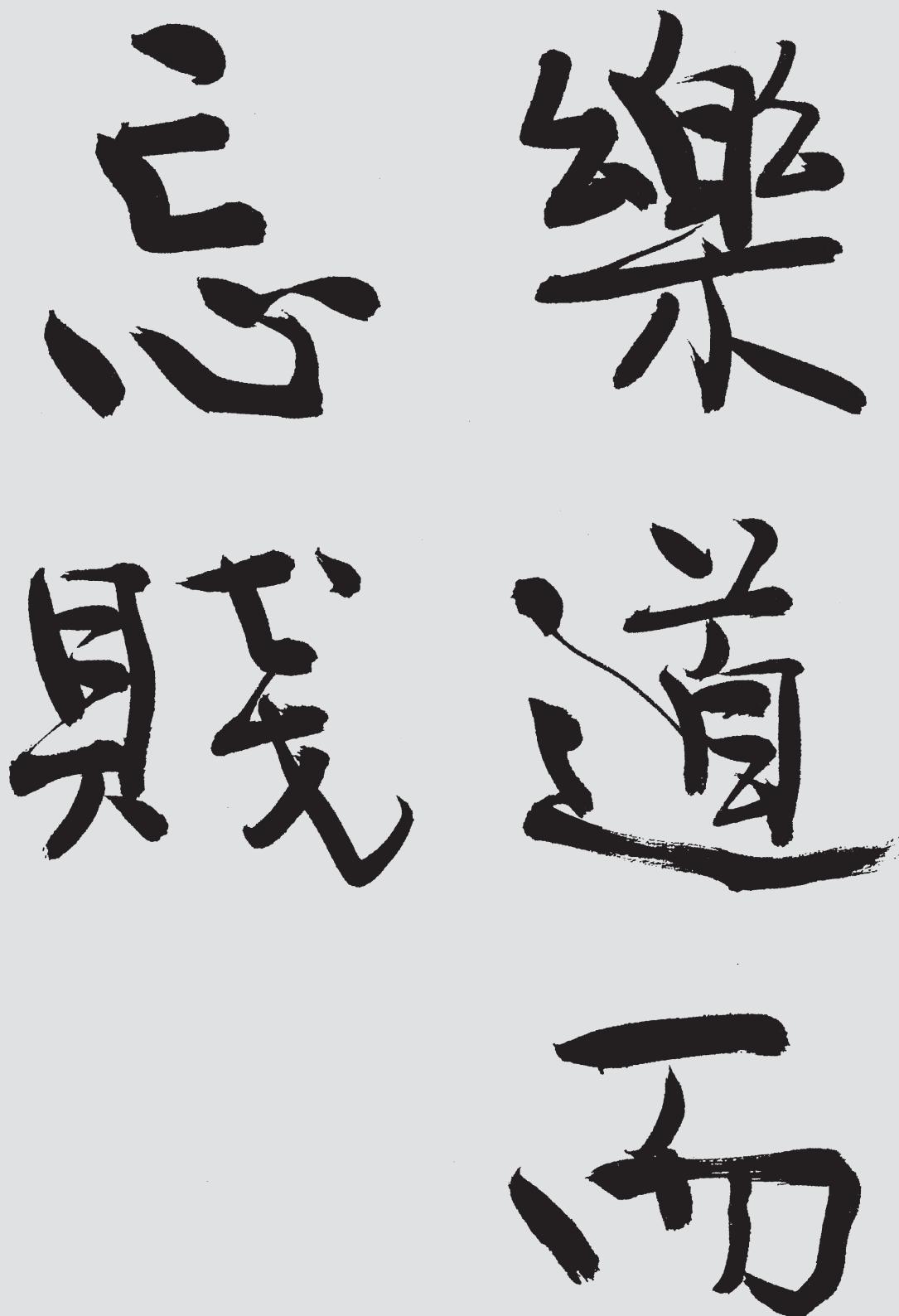
おしゃうがつは、かるたをしたいな。

小1～小3 田辺翠鶴先生

平成27年書初めコンクール課題（1月13日締切）

参考手本

*これは規定課題ではありません。



道を楽しみて
賤しきを忘れ

成瀬映山先生